

血液内科を受診している患者さんへ

当科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	環状 PVT1 RNA に着目した新たなリンパ腫の分子病態解明と新規標的治療への応用
研究機関名	愛知医科大学病院
研究機関の長	病院長 道勇学
担当科等	血液内科
研究責任者	(職名) 准教授 (氏名) 水野昌平
試料・情報を利用する学外の研究機関名・研究責任者名	なし
研究の意義・目的	染色体 8 番にある 8q24 の増加や染色体 14 番にある 14q32 との転座 (異なる 2 本の染色体に切断が起こり、その切断された断片が交換され、他方に結合するもの) により、8q24 にある遺伝子は過剰発現し、悪性化にも密接に関わるがん遺伝子とされています。血液腫瘍では、特にバーキットリンパ腫の病気の成り立ち、びまん性大細胞性 B 細胞型リンパ腫や骨髄腫の予後の悪さに関連します。8q24 にある PVT1 遺伝子の発現上昇は、がん遺伝子の安定化を強め、子宮癌や乳癌のがん化を促進させます。とりわけ、PVT1 の中でも環状 RNA (環状 PVT1) が、胃癌の予後不良因子、急性骨髄性白血病のがん化遺伝子などで報告されています。また、血液中の環状 PVT1 は骨肉腫の診断マーカーとしても期待されています。 びまん性大細胞性 B 細胞型リンパ腫には環状 PVT1 高発現しているものがあり、環状 PVT1 がその薬剤耐性や難治性に関わっているのではないかと「問い」が、本研究の出発点です。びまん性大細胞性 B 細胞型リンパ腫に環状 PVT1 が関わっていることが解明できれば、新たなリンパ腫のグループの確立と共に環状 PVT1 をターゲットとした治療法の開発への発展も期待できます。また、血液中の環状 PVT1 を測定し、環状 PVT1 陽性びまん性大細胞性 B 細胞型リンパ腫との関連を証明できれば、診断に有用な血液マーカーともなります。
対象となる患者さん	2016 年 1 月～2020 年 6 月までに、びまん性大細胞性 B 細胞型リンパ腫と診断され、「造血器腫瘍の染色体・体細胞遺伝子変異および遺伝子多型が治療、予後に及ぼす影響に関する研究」に同意をいただいた患者さん

研究の方法	(1) 環状 <i>PVT1</i> 発現とびまん性大細胞性 B 細胞型リンパ腫の病型との関連性の解析 診断時採取されたリンパ節については、診断のために病理標本が作成されます。その余った標本を用いて RNA を抽出し、その中に特定の遺伝子が発現しているか確かめる PCR 検査を行います。これらの手法により、その他のリンパ腫の治療や進行に関わる遺伝子の発現を確認します。環状 <i>PVT1</i> 陽性群と陰性群での発現遺伝子の違いについても網羅的に検討します。治療反応・再発・生存などを、統計解析を用いて計算します。 (2) びまん性大細胞性 B 細胞型リンパ腫における血液中環状 <i>PVT1</i> の測定と血液マーカーとしての可能性の検証 以前に保存していた血液中の環状 <i>PVT1</i> 発現を PCR 検査で確認し、環状 <i>PVT1</i> 陽性びまん性大細胞性 B 細胞型リンパ腫の診断や治療効果指標になり得るか検討します。
研究期間	倫理審査承認日 ～ 2030 年 3 月 31 日
研究に用いる試料・情報	試料：「造血器腫瘍の染色体・体細胞遺伝子変異および遺伝子多型が治療、予後に及ぼす影響に関する研究」に同意いただいた時に保存した血液 情報：年齢、性別、びまん性大細胞性 B 細胞型リンパ腫多発性骨髄腫に対する診療情報など
外部への試料・情報の提供	なし
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への情報の利用又は提供を希望しない方は、下記問い合わせ先まで申し出てください。
問い合わせ先	愛知医科大学 医学部 内科学講座（血液内科） 担当者：（職名）准教授 （氏名）水野昌平 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又 1 番地 1 電話 0561-62-3311（内線 23540）